第10号

中丹 農業改良普及センターだより

集落ぐるみで取り組もう！ 獣害対策

集落が餌場になっていませんか

近年、獣による農作物の被害が増えています。さまざまな原因が考えられますが、集落の農地が獣の餌場になっていることや対策が十分ではないことが大きな原因です。

獣は、山の餌より、いつでも食べられる栄養に富んだ農作物を好んで食べようとします。

雑草が繁茂した荒廃農地が増え、そこが獣の隠れる場所となって集落に近づきやすくなり、集落に豊富な餌があることを学習してきています。

獣害対策の順序

獣害を火事にたとえると

防火

①みんなで勉強
- 集落の７割以上の参加が成功のカギ。

②守れるほ場、守れる集落への変身
- 集落を点検して、餌付けとなる事例を減らす。
- 獣が安心して集落や田畑に接近できるところを減らす。

初期消火

③柵で囲ったり、追っ払ったり
- かなりの被害や慣れが生じた場合や、遠くで監視ができないときは柵で囲ってみましょう。
- 見かけたら無視せずにおどかしたり、追い払いをしましょう。
- 無理は禁物。やれることからやっていくのが長続きのコツ。

消火

④捕獲や駆除
- 計画的に行えば、警戒心も持続させられますが・・・。

消火だけがんばってやっても、防火を無視し、初期消火を怠っていれば、いつまでたっても火事は減りません。

獣が嫌がる集落づくり

獣害対策の基本は、獣が嫌がる集落をつくることにありますが、集落で少数の人がいくら熱心に取り組んでもダメで、集落全体で話し合って取り組むことが大切です。

実際に取り組んでいるところでは、

- うちの集落では、稲のひこばえをシカが食べに来て餌付け状態になっている。稲刈り後に耕うんすればどうか。
- 最近たびたび獣に進入されるなぁと思って、みんなで電気柵を点検して回ったら不備のある箇所がわかった。

などの意見が出され、対策を通じて、獣害を減らしている事例が増えてきています。

普及センターは集落ぐるみの獣害対策を提案しています。獣害でお困りの方はご連絡ください。

5ページの獣害対策クイズにチャレンジしてください

京都府中丹広域振興局農林商工部

中丹西（にし）農業改良普及センター
〒620-0055　福知山市篠尾新町1-91
TEL 0773-22-4901
e-mail:chushin-no-nishi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

中丹東（ひがし）農業改良普及センター
〒623-0012　綾部市川糸町丁畠10－2
TEL 0773-42-2255
e-mail:chushin-no-higashi-nokai@pref.kyoto.lg.jp

◆発　行◆
2010年（平成22年）3月

”築いていこう　差別のない　明るい社会”

普及センターが取り組んできた 7つのプロジェクト

普及センターでは、平成19年度より、中丹地域の重要課題を7つ選定し、元気な中丹地域農業・地域の活性化を目指して活動してきました。

ブランド産地の組織強化プロジェクト

ブランド京野菜の産地拡大

『万願寺とうがらし』や『紫ずきん』などの京野菜の産地拡大を目指し、「安定栽培の技術支援」「新規担い手の確保」に取り組んできました。

①『万願寺とうがらし』の辛味果対策として導入された「京都万願寺1号」の特性に合った栽培技術の普及や疫病・青枯病に抵抗性を持つ台木「台パワー」の効果確認に取り組みました。この台木は22年度から本格的に導入されます。

②『紫ずきん』の安定生産技術の普及と産地規模拡大に向けて取り組み、20年度中丹地域で、初めて販売額1億円を達成しました。

③京野菜栽培の新規担い手を確保するため、定年退職者層を主な対象に、京野菜栽培農家の見学会や栽培セミナーを開催しました。セミナー等を受講され、新たに京野菜を栽培された方は、3カ年で24名に達する見込みです。

地産地消の推進プロジェクト

魅力ある直売所づくりをめざして

消費者の食の安心・安全に対する関心が高まっている中で、生産者の顔の見える地元産農産物が求められています。そこで、売上げ向上を目指す農産物直売所や加工品を販売している加工グループに対して「生産者と消費者が共に取り組む地産地消の活動」をすすめ、魅力ある直売所になるように支援してきました。

①豊富な品揃え

端境期をなくし安定した出荷量を確保するために、直売所ぐるみで「種子の共同購入」「被覆資材の活用」「段播き」「ハウス施設の活用」がより活発に行われ、品揃えが豊富になりました。

②消費者に伝えたい情報の発信

消費者に農産物の情報を伝えるため、農産物の特徴や料理法を記したメッセージカードを店頭に展示するようになりました。

③品質管理を重視した加工食品づくり

加工食品の品質を保持するため「脱酸素剤などの包装資材の活用」「夏場の加工食品の運搬方法」さらには、加工食品に「菌をつけない、増やさない」衛生管理に取り組まれるようになりました。

衛生管理に気をつけた加工品づくり

農村集落の活性化支援プロジェクト

過疎・高齢化集落の再生

①ふるさと共援活動を支援

・舞鶴市松尾（京都大学と共援）

・福知山市三和町大原（佛教大学と共援）

両地区で大学とともに、住民アンケート・聞き取り調査を実施し、地区の特産物育成や地域資源の活用などについて話し合い、取り組みを進めています。

②「農家体験」講習会を開催

21年度は7～12月に講習会を5回、視察研修会を1回開催し、延べ54人の受講があり、体験受け入れに必要な知識や方法を学びました。

③都市農村交流会を開催

20年度「農家体験」講習会を受講された80名のうち有志7名が「田舎に来なぁ」実行委員会を結成し、今後それぞれの農家が受け入れをしていく「農家体験」を紹介するために、合同で都市住民との交流会を11月21日に開催しました。

舞鶴市松尾でゴボウは種作業

担い手の確保・育成プロジェクト

高齢化が進んだ中丹地域に新しい農業者を招く活動を展開しました。

府の補助事業「担い手養成実践農場」を活用して技術研修を開始した新規就農者は、3年間で11名になりました。

その中で、21年度は綾部市の小畑哲也氏、福知山市の高橋善雄氏、舞鶴市の大石貴文氏の3名が2年間の研修を修了し、就農する運びとなりました。

研修ではベテラン農家が指導

注目される農業経営の第三者継承

新規開業だけでなく、後継者のいない農業者の経営を引き継ぐ形での新規就農も推進し、現在2名が研修中です。この方法は、世襲以外の世代交代の手法として注目されています。普及センターではリタイアする農業者と就農希望者の橋渡しを増やしていきます。

土地利用型作物の産地づくりプロジェクト

平成21年11月11日(京都市)
綾部産特栽ヒノヒカリをＰＲ

「丹波大納言小豆」のコンバイン収穫体系と安心・安全で売れる米づくりに結びつく「特栽米」に関する技術課題の解決に取り組みました。

①小豆機械化栽培の推進

営農組織がコンバイン収穫をするために必要な、は種から収穫後の乾燥に至る技術体系の提案活動を展開しました。また、農機具メーカと協力し、収穫時の損失が軽減ができる部品の開発や、家庭用除湿器を使った簡易乾燥方法や汎用型循環式乾燥機が利用できることも確認しました。

省力化技術への期待は大きく、栽培面積300ヘクタールのうちコンバイン収穫体系による栽培はおよそ50ヘクタールまで広がりました。

②特色ある米づくりの推進

全稲作農家が特別栽培できる体制づくりと個性ある契約栽培につなげる取組を支援し、中丹地域の特栽米面積は、300ヘクタールとなりました。また、京都大学レストランで綾部産特栽「ヒノヒカリ」の使用が始まり、特栽日本晴を使った純米酒も発売されるなど、特栽米支援が売れる米づくりに発展しました。

安心・安全で環境に配慮した生産技術の普及定着プロジェクト

①天敵利用農家数がほぼ2倍に拡大

『万願寺とうがらし』ではアザミウマ、ハダニ、アブラムシの3種類の害虫防除に天敵が利用されていますが、この防除方法を採用する農家数がここ3年で41戸から75戸とほぼ倍増し、栽培者の2割まで広がりました。

「農作業が楽になった。手間賃も考えると安いくらい」と喜ぶ農家の声を紹介して天敵利用を促すとともに、失敗のない効果的な使い方を講習会や現地巡回で普及させてきました。また、地域の農家のお手本となる「拠点農家」の育成にも力を入れてきました。

これから天敵利用は一部農家のみの「特別な技術」ではなく、一般農薬と同様に誰もが取り組める「普通の技術」とすべきであろうと考えています。そのため、更に広く取り扱いの要点を普及させていきたいと考えています。

現地で重ねてきた天敵の勉強会

②『紫ずきん』栽培で発酵鶏ふんの施肥効果を確認

地元畜産有機物の有効利用と低コスト化を目指し、発酵鶏ふんを肥料とした『紫ずきん』栽培試験を3年間、延べ11カ所で実施しました。その結果、慣行肥料とほぼ同等の生育と収量が得られたので、この肥料体系をＰＲしていくことにしています。

「宇治茶」の産地づくりプロジェクト

次世代を見据えた両丹茶の生産基盤の確立

16年度から引き続いて、新植面積の拡大と担い手の確保・育成の活動を継続展開し、新たに環境にやさしい栽培技術の普及と清浄茶づくりの啓発・推進を図ってきました。

①担い手の確保育成

これまでに5.4ヘクタールで新植されるとともに、21名の方が新たに就農されました。また、これらの方々を中心に青年部が組織化され、活動の支援を行っています。

②環境にやさしい茶栽培技術の普及

肥料を3割節減した実証結果に基づいて、普及活動を行い、ＪＡ京都にのくに茶部会の栽培こよみに環境負荷低減型として採用されました。

③清浄茶づくりの啓発推進

安全・安心な茶生産を推進するため、中丹版衛生管理マニュアルが策定され、中丹地域の17茶工場で取り組まれました。

獣害対策クイズ

獣害対策、みなさんはわかりますか？
①～⑤に○×でお答えください。

①自分の畑の作物が狙われないように、出荷できない収穫物を他の場所に捨てて獣が食べるようにした。

②サルは人間から痛い目に遭った事を後で他のサルに教えていない。

③シカは障害物がある時は、まずジャンプして飛び越えようとする。

④サルが近くに来たが、自分の畑を荒らす様子がなかったので放っておいた。

⑤獣害対策用のネットの下を押さえるために大きな石を置いた。

【回答】

×…①これは餌付け行為です。餌があることを獣に記憶させることになります。これがひいては、栄養状態がよくなり出生率をあげ、死亡率を下げ、ますます獣を増やすこととなります

○…②サルといえども、時間を超えて情報伝達はできません。サルは皆さんが思っているほど賢くありません。

×…③シカがジャンプするのは最終手段です。まずは柵などの下の隙間を潜ろうとします。柵に隙間がないかチェックをして下さい。

×…④サルは人間が怖いものだと認識しなくなり、ますます出現するようになります。サルを見たら必ず追い払いましょう。

×…⑤石の下にはミミズなどイノシシの好物が生息します。U字針金などで留めてください。

エコファーマーの紹介

京都府が認定しているエコファーマーの方々を消費者との接点づくりや販路拡大につなげるため普及センターのホームページで紹介しています。

中丹東農業改良普及センター：http://www.pref.kyoto.jp/chutan/h-fukyu/
中丹西農業改良普及センター：http://www.pref.kyoto.jp/chutan/n-fukyu/

地域で大活躍

京都府あけぼの賞 受賞

21年度に、京都府あけぼの賞を受賞された杉本好美さんを紹介します。

綾部市故屋岡町（奥上林）で水稲と繁殖和牛の複合経営をされている杉本さんは、今後、もっと放牧に取り組む地域を広げて、将来は、その地域が繁殖和牛農家の仲間入りをしてもらいたい。

また、放牧を地域の観光に役立てたい。

自宅の前の水田でも放牧をしているので、牛に興味のある人は見に来てくださいと話されています。

- **放牧期間　4～10月（雨天でない日）**
- **放牧場所　綾部市故屋岡町**
  旧奥上林小学校の上流側の水田
- **駐車場　家の前に2～3台なら駐車可**

『京都府あけぼの賞』は、様々な分野での先駆的な活躍で特に功績の著しい女性やグループに贈られます。

農の匠 京都府農山漁村伝承優秀技能認定者

加藤 已喜男さん　福知山市大呂在住

◆技能名：乳用牛飼育（河川敷飼料生産）（平成20年度　第43号）

由良川河川敷草地で自給飼料（イタリアングラス）を栽培され、平成6年からロールベーラーでサイレージを生産されています。

特に、排水性が良い河川敷ほ場の特徴を活かした高品質・多収自給飼料生産技術を確立し、粗飼料自給率を100％にして、低コストな酪農経営を実現されました。

昭和52年から指導農業士として農業振興に活躍され、地域の畜産農家の中核として大きな役割を果たしておられます。

和久 信雄さん　福知山市一尾在住

◆技能名：和牛改良（平成21年度第50号）

和牛を肉用牛として活用するためには、熱意と長年の飼育経験に基づく改良が必要です。

和牛改良のためには、繁殖・ほ乳能力、産肉能力等に優れた繁殖雌牛・交配種雄牛の選定が重要ですが、それに加えて新しい技術である受精卵移植を利用した牛群改良や、放牧によって足腰の強い子牛を育成する技術なども工夫され、府内でもトップレベルの和牛改良技術を保持されています。

地域の肉用繁殖農家のリーダーとして、府内の和牛改良や、繁殖農家の育成に尽力されています。

新しい京都府指導農業士

渡辺 弘造さん

綾部市睦合町（中上林）で、7.2ヘクタールの水稲と、万願寺とうがらしや直売野菜のハウスを2棟経営され、水田とハウスは、家庭内で分業して管理をされています。

渡辺さんは、「農業は大切な食料を生産する仕事なので、高価格で売れればそれで良い、とは思わない。生産者にも消費者にも安定した良い仕組みを考えるべきではないか」と考えられています。

三﨑 要さん

福知山市三和町で、13年から新規就農者として施設園芸を開始され、京の伝統野菜であるみず菜を中心に農業経営を展開され、現在では新規就農者の受け入れ、研修指導者としても活躍され、若手の地域農業のリーダー的存在として期待されています。

三﨑さんは「農業者自身の努力と経験から得られる技術が大切である。また、実践農場の指導者としては、農業技術に対する助言と営農以外でも地域とのパイプ役だ」と思われています。

退会された農業士

杉本好美さん
細見義晴さん
おつかれさまでした